

ドラッグインフォメーション

平成 26 年 3 月改訂

販売名	アンナカ「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 安息香酸ナトリウムカフェイン			
洋名	Caffeine and Sodium Benzoate	発売年月	1961 年 1 月	
一般名	安息香酸ナトリウムカフェイン	薬価収載年月	1961 年 1 月	
剤形	散 剤	薬 価	1g 9.50	健保適用
規制区分	劇薬	日本標準商品分類番号	872115	
厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	2115003X1162	YJコード	2115003X1162	
性状	本品は白色の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。本品は水に溶けやすく、酢酸(100)又は無水酢酸にやや溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。			
組成	本剤 1g 中、日局安息香酸ナトリウムカフェイン 1g を含む。			
効能・効果	ねむけ、倦怠感 血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛(片頭痛、高血圧性頭痛、カフェイン禁断性頭痛など)			
用法・用量	安息香酸ナトリウムカフェインとして、通常成人1回0.1～0.6gを1日2～3回経口投与。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 (参考:極量は1回1g, 1日3g)			
配合変化	アスピリンと混和すると湿潤する。 本品の水溶液に酸を加えれば難溶性の安息香酸やときにカフェインも析出する。			
薬効薬理	本品の薬理作用は主としてカフェインに基づく。中枢において、大脳皮質に作用し感覚受容能及び精神機能をたかめ眠気を除去するほか、運動中枢や延髄の呼吸中枢を興奮させる。脳血管抵抗増大や脳血流低下、またそれに伴う脳脊髄圧低下によると考えられる頭痛緩解作用がある。			
体内動態	カフェインは経口投与でも注射でも容易に吸収され、経口投与後も既に15分後には作用の頂点に達するというが、本品の胃腸管よりの吸収はカフェインに比べて少しおそい。 カフェイン服用後48時間の尿中への排泄は1-メチルキサンチンとそれが酸化された1-メチル尿酸多く両者で46%をしめる。カフェインのサルでの生物学的半減期は11時間である。また、カフェインは胎盤通過性、母乳中移行性を有する。			

使用上の注意	1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)胃潰瘍又はその既往歴のある患者〔胃液分泌を促進するため、悪影響を及ぼすおそれがある〕 (2)心疾患のある患者〔徐脈または頻脈を起こすことがある〕 (3)緑内障の患者〔症状が悪化するおそれがある〕		
	2.. 相互作用 併用注意〔併用に注意すること〕		
	薬剤名等	臨床症状・措置方法	
	機序・危険因子		
	キサントシン系薬剤 アミノフィリン ジプロフィリン テオフィリン等 中枢神経興奮薬	過度の中枢神経刺激作用が現れることがある	併用薬の代謝・排泄を遅延させることがある
	MAO阻害剤	頻脈、血圧上昇らが現われることがある	機序不明
	シメチジン	過度の中枢神経刺激作用が現われることがある	本剤の代謝・排泄を遅延させることがある
	3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない		
	種類 \ 頻度	頻度不明	
	大量投与	振せん、頻脈、期外収縮、耳鳴、不眠、不穏等	
	4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。		
	5. 妊婦・産婦・授乳婦等への投与 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。〔カフェインは胎盤を通過し、また母乳中に容易に移行する〕		
	6. 過量投与 <b>徴候、症状:</b> 消化器症状〔悪心・嘔吐等〕、循環器症状〔不整脈、血圧上昇等〕、精神神経症状〔痙攣、昏睡〕、呼吸器症状(呼吸促進、呼吸麻痺等)等の増悪を起こすことがある。 <b>処置:</b> 胃洗浄や吸着剤・下剤の投与により薬物を除去し、輸液等により排泄促進を行う。また、興奮状態には対症療法としてジアゼパム注、フェノバルビタール注などの中枢神経抑制薬投与を考慮し、呼吸管理を実施する。		
取扱上の注意	規制区分:本品は劇薬である。 貯 法:密閉容器、室温保存		
備考	包装単位:100g, 500g		
文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 :東京都中野区中央5-1-10		